35　養蚕天女　高村光雲　一点

大正十三年（一九二四）　木彫
一七・二×二二・二×四八・二

天冠の頂に蚕蛾を付け、左手は薄衣を軽くつまみ持ち、右手に持つ蚕蛾の繭を愛しむように見つめる天女像である。右足を少し前に出して左足に重心を置き、首を心持ち傾けるなど、動きのある立像となっている。足元には桑が一枝置かれている。サクラ材の一木造りで基台の裏面に「高村光雲刀」の刻銘がある。養蚕天女やその造形について、具体的な先例を知らないが、吉祥天像などを参考にしつつ、加えて、特に近代皇室において明治四年より歴代皇后が養蚕に親しまれていることを念頭に、光雲が新たに生み出した天女像と考えられる。ちなみに天女のもつ繭は中央がくびれたピーナッツ形をしており、当時、我が国の経済を支えた養蚕業において、品質の高い絹糸を生み出した小石丸種の繭の形と共通している。大正十三年の皇太子（昭和天皇）御結婚に際して、貴族院より皇太子妃（香淳皇后）へ献上された品である。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生——作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録No. 72

編集　宮内庁三の丸尚蔵館

制作　株式会社 東京美術

翻訳　黒川廣子

発行　宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan